# 山梨県流通センターニュース

編集・発行　協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地２－６－１）
ＴＥＬ（055）273－４７１１　ＦＡＸ（055）273－４７１３

▲ 職域接種について説明する組合関係者

▼ 職域接種説明会に集った組合員

## 新型コロナウィルス　ワクチン3000人対象に職域接種

### ８月末にコロナワクチン２回接種完了

当組合の新型コロナワクチン職域接種が2021年７月12日から７月30日、８月10日から８月30日の計28日間、流通会館で実施された。

これは、厚生労働省がワクチン接種に関する地域の負担を軽減し、接種の加速化を図るべく、６月８日から職域接種の申請受け付けを開始したため、当組合では申し込みに向けて準備を行った。

実施条件として、医師・看護師の確保、接種会場の確保、最低1,000人以上の接種といった要件が求められるが、当組合では組合員の㈱日医工山梨協力のもと、医師・看護師・スタッフの人員を確保し、組合会館の展示場を利用することで、職域接種を行うための条件をクリアすることができた。

組合と㈱日医工山梨、医療法人啓徹会市川メディカルクリニックの３者で協議し、実施するための骨子を固めた。同時に山梨県とも話し合い、６月16日にいち早く職域接種会場申請サイトに申し込み、同日中に承認された。

申請により当組合の職域接種で確保できたモデルナ社ワクチンは6,000回（3,000人分）で、接種の対象としたのは18歳以上64歳以下の組合員・準組合員及びその役員従業員、組合員の関連企業従業員とし、事務局で１回目と２回目の接種日を指定しても可能な方のみ受け付けることとなった。

組合の従業員数は団地内・団地外従業員合わせて約4,500人の役員・従業員が勤めているため、組合員ごとに接種申込者の上限を設定し、なるべく多くの方に接種いただけるよう対応した。

以上の内容について詳細な説明を行うため、６月24日に各組合員・準組合員を対象とした職域接種説明会を開き、82社中75社が参加した。また、同日報道機関を呼んで記者会見を開き、組合として正式に職域接種を行うことを発表した。

７月２日にワクチンを保管するためのディープフリーザーの冷凍庫が2台配送され、７月９日にモデルナワクチン（100バイアル）が配送されてきた。モデルナワクチンは－20℃（±５℃）の状態で保管をする必要があり、急な停電に備えるため組合の防災備蓄品である発電機も準備して保管を行った。

接種者3,000人の受け付け、医療機関体制、会場準備、ワクチンの用意が整い、７月12日からワクチン接種を始めた。医師、看護師、スタッフ約15人体制

で運営し、毎回200人の接種者がスムーズに接種が受けられるよう対応した。２回目の接種時には、体調不良等のため、予約日に接種できない方を対象に、接種期間中の毎日16時に予備枠、９月２日に予備日を設け、なるべく多くの方が２回目の接種ができるように努め、最終的な総接種回数は6,049回となった。

山梨県では８月11日から新型コロナウイルス新規感染者が50人を超え、８月20日には『まん延防止等重点措置』が実施された。これから新型コロナウイルス感染症がどのような状況となるかは不透明であるが、組合は組合員・準組合員の安全・安心のために今後もできることは積極的に行っていくことにしている。

▲ ワクチンを保管する冷凍庫

▲ 職域接種の受付に並ぶ人たち

▲ ワクチン接種の様子

## 善意を活かし有効活用へ

### 数野会長　当組合に車いす2台寄贈

今般、組合員である㈱エスケーツー会長の数野雄次氏から、組合の役に立てて欲しいとの願いのもと、車いす２台（写真）の寄贈があった。

当組合では、政府が推進している新型コロナウイルス感染症ワクチンの職域接種を７月12日から行ったが、今まで車いすの備えがなかったので、数野氏の善意を受けて、有効活用することとした。

## 43社644人が受診

### 密を避け健康診断

７月12日（月）～７月16日（金）までの５日間、流通会館で集団健康診断が実施され、43社から644人が受診した。

今年度は流通会館で新型コロナウイルスワクチン職域接種として展示場を使用していたため、４月から貸し出しを開始したスタディルームで実施した。例年よりも狭い会場となったが、廊下に待機列を作るなどして、会場の密を避けるよう行った。

# 令和３年度事業計画・収支予算案承認

## 通常総会　50周年記念特別事業がスタート

第49回通常総会は、５月28日（金）流通会館展示場で開かれ、組合員56人（委任状出席含む）が出席。令和２年度の事業報告、収支決算、令和３年度事業計画、収支予算案などの提出議案は全て承認、可決された。

令和２年度の事業報告では、第１に新たなる団地の再整備として、新組合会館建設のために組合員への調査・ヒアリングを行い、また、組合会館新築を行った卸商業団地や、建替えを検討している卸商業団地の視察を行い、建設に当たっての基本コンセプトを策定した。

第２に収益力の強化と財務基盤の充実として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、会館利用料収入は減少となったが、修繕等の経費削減、賃貸収入により安定したキャッシュフローが維持された。第３に組合組織の活性化推進として、総合防災訓練や定例懇談会を実施し、組合員間の連携を深めた。第４に組合諸施設の整備・補修として、防犯カメラ増設工事、街路灯アーム交換等の整備を行い、警備事業としては組合員の建物に設置されている機械警備の設備調査を行い、必要な設備の更新と増設を１年かけて実施した。

令和３年度の事業計画は、令和２年度で実施した事業を中心によりよい組合に発展するための施策を進めるために、団地再整備特別委員会は、①新組合会館建設予定地の取り壊し建物のアスベスト調査及び、解体工法の検討、②防災機能強化および企業・サテライトオフィス誘致の調査検討、③既存組合会館の跡地利用の調査・検討を行う。また、組合創立50周年記念事業が令和４年11月に予定されているため、50周年記念事業特別委員会と業務委託会社で式典の企画等を検討していく。

以上の令和２年度事業報告、収支決算、令和３年度事業計画、収支予算案などの議案は全て承認、可決され総会は閉会した。

▲ 多くの組合員が出席した通常総会

# 新組合会館建設へ検討開始

## 地震に加え、水害にも対応する

団地再整備特別委員会（中込裕委員長）の事業報告会が６月23日（水）、第２展示場で開かれ、組合員約54人が参加した。今回は令和元年度～令和２年度にわたる事業で、全国卸商業団地協同組合連合会の「卸商業団地機能向上支援事業」を活用して、耐震性能や老朽化の問題を抱えた組合会館を、防災機能を備えた新たな組合会館建設することを目的とし実施された。

新組合会館は旧新峰の建物を解体した跡地に①組合の維持・発展②防災拠点③地域との連携という３つのコンセプトを基本方針に掲げ、『組合員が安全・安心で企業活動に専念できる街づくり』を将来ビジョンとして計画している。そのために課題として挙がったものが、耐震と水害対策である。

特に水害は中央市ハザードマップで、最大3.0m未満の浸水発生が想定されるため、新組合会館は、大規模災害を見据えた建築計画を作成した。建築計画はＡ、Ｂ、Ｃの３案あり、委員会では、敷地内の北側に３階建ての建物を建築するＢ案が採用された。またＢ案の建物を建築した場合の水害についてのシミュレーション映像を流し、想定されている災害が起こるとどのような状態になるのかを紹介した。

中込委員長は「地震はいつか来るだろうと10年ぐらい前から言われているが、ここ数年で地震以外に水害というキーワードも出ている。新組合会館建設についてはそういった部分も含めて検討を進めている。具体的にはまだまだ精査していかなければならない点もあるが、基本コンセプトについて皆様にご説明できる段階になったので、忌憚のないご意見を頂戴しながら８年後に向かって計画していきたい」と話された。

▲ 新組合会館の建設予想図

▲ 新組合会館についての説明を受ける

# 労働関係法令の改正、感染症対策BCPについて

## 定例懇談会　関心高い旬の話題から学ぶ

定例懇談会が３月24日（水）に流通会館第２展示場で開かれ、組合員・準組合員、中小企業団体中央会、トラックターミナル協同組合から約40人が出席した。

講師に、当組合顧問社会保険労務士雨宮隆浩氏と荻原安全研究所 荻原正宏氏をお招きした。

雨宮氏からは労働関係法令等の改正についての説明があり、令和３年で法改正が５つ、令和４年で４つ、令和５、６、７年で４つと数多くの法改正が行われるとされた。中でも令和３年４月に施行される「同一労働同一賃金」では、正規雇用者と非正規雇用者の不合理な待遇差を解消するものであるため、もし待遇に差がある場合は、その明確な理由を提示しなければならない。場合によっては損害賠償請求等のリスクも発生する。そのため雨宮氏はとかく待遇に差が見られがちな各社の福利厚生について改めて整理をすべきであると呼びかけた。

続いて荻原氏からは当組合のBCPマニュアルに新たに追加した感染症に関する項目について説明をいただいた。感染症が発生した場合の行動基準（国外発生、国内発生、県内発生など）について解説し、感染症に対する社内訓練として、講義や文章の読み合わせ、動画の視聴、仮想のシナリオによる図上シミュレーションや実地訓練を行うことで、実際に感染症が発生した際に効果が期待されると話された。

荻原氏は組合や組合員が備蓄するものとして推奨品項目を提示し、地震等の災害と合わせて、感染症に対する備蓄品も用意するよう促した。

▲ 労働関係法令等の改正について講演する雨宮社労士

▲ 感染症BCPについて説明する荻原氏

# BCPマニュアル（改訂版）組合員に配布

## 新型コロナウイルスへの備え充実

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、平成29年４月１日施行された組合員企業連携事業継続計画マニュアル（以下BCPマニュアルという）について、新たに第９編として感染症の項目を追加・作成し、組合員に配布した。

BCPマニュアルは、組合全体における感染症対策に必要な事項を定め、感染予防と感染症被害の軽減を図り、会社内に感染症が拡大しても事業の継続を可能とすること、組合員企業は従業員及び家族の安全と健康を確保し、自社の事業継続対応を行うとともに、組合BCPに定めた対応について協力・参加を行うことを目的としている。

さらに、組合は感染症の予防と組合関係者が感染した場合に、関係者の安全確保と健康確保、組合員企業の事業継続支援を図ることが社会的使命であるので、①迅速な感染防止の実施②感染症の拡大防止、③組合員の事業継続支援④組合員企業の再建支援を行うことを基本方針とした。

実際に感染症が拡大した際の具体的な行動について、第７条では組合が設定した発生段階とステージ分類（図１）に応じた組合員の行動基準が記載されている。海外発生、国内発生、県内発生、組合員従業員又は家族内発生ごとに分けられており、状況に見合った行動が求められる。

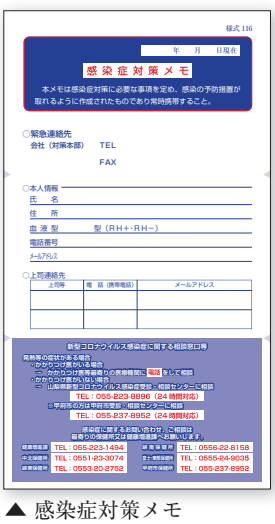
また、感染症BCPマニュアルでは参考資料として『感染対策備蓄品一覧』や『感染症法における感染症の分類』、感染症に関する教育マニュアルなどを添付している。必要に応じてこれらの資料を参考にし、いざというときに備えていただきたい。

なお、従業員向けに「感染症対策メモ」も作成し、常時携帯してもらうことを目的に配布した。

**発生段階とステージ区分**

| 状態 | 各個社ステージ |
|---|---|
| 未発生 | 0 |
| 一部地域で発生 | 1-1 |
| 海外にて拡大 | 1-2 |
| 国内発生 | 1-3 |
| 県内または取引県発生 | 2-1 |
| 組合員従業員又はその家族で発生 | 2-2 |
| 数社の組合員従業員・家族で発生<br>一部クラスターが発生 | 3-1 |
| 従業員及び家族で20％以上感染 | 3-2 |
| 社内及びその家族感染者ゼロ | 4-1 |
| 県内又は取引県ゼロ | 4-2 |
| 国内ゼロ | 4-3 |

図１




▲ 感染症対策メモ



事故ゼロは　団地の願い　我が誓い

# お客様の心を掴もうと強調

## 石黒講師　営業力強化について講演

「営業力強化セミナー～お客様の心を掴む会話術」をテーマにした社員研修会が、３月11日（木）に第２展示場で開かれ６社19人が参加した。

講師は未来と翼合同会社 代表　石黒仁氏。石黒氏はお客様の心を掴むために大切なことは、相手の気持ちに寄り添い、価値観を理解することが大切だという。そのためにEPE（Elicit：引き出す→Provide：提供する→Elicit：引き出す）という質問方法を使ってお客様から情報や気持ちを引き出し、価値観を共有することが大切だと説明した。

また、葛藤するお客様の意思決定を促す方法について、変化したいポジティブな欲求の場合の質問や、変化したくないネガティブな欲求を減らす質問を取り上げ、実際に参加者たちと意思決定につながる会話を実践した。

お客様の気持ちを理解・共有することは難しい技術ではあるが、今回学んだことを営業の武器のひとつとして活用いただきたいと石黒氏は強調した。

# 参加者同士の協力でSDGs実感

## ワークショップ　５社８人が参加して取り組む

2030SDGsワークショップが７月８日（木）にスタディルームで開かれ、団地内外企業の５社から８人が参加した。

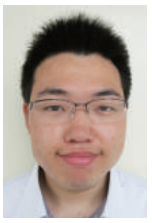
講師に㈱アドヴォネクスト代表取締役で2030SDGs公認ファシリテーターの井上雅博氏をお招きし、「2030SDGsカードゲーム」を用いながら、2030SDGsについて講演をいただいた。

この「2030SDGsカードゲーム」のルールは「お金」と「時間」を消費して「プロジェクト活動」を実行し、参加者一人一人に与えられたゴールを達成する内容となっている。またプロジェクトを実行するときにもう一つ大きなポイントとして、経済・環境・社会で構成される「世界の状況パラメーター」が増減する仕組みとなっており、2030年がどのような世界となるのかを体験するゲームである。

参加者たちはプロジェクトを実行させて環境を守りたいとする「緑の意思」を集める人や、お金を得るために他者が目標とする「意思」と「お金」をトレードする人など、各々の目標達成のためにコミュニケーションをとりながらゲームを進めた。前半では目標達成を進めるあまり、「世界の状況パラメーター」が経済に傾きすぎてしまったが、後半では他のメーターを伸ばす動きが現れ、本ワークショップの2030年は比較的バランスの取れた世界を迎えることができた。

参加者からは「ゲームを通して各参加者が国のように見え、現実の世界でも各国が協力をしていかないとSDGsは達成できないと思った」や「目標を達成させるために他者がどんなカードを持っているかなど情報収集が大切に感じた」などの声が上がり、各々のSDGsに対する気づきが得られるワークショップとなった。

# 新入社員紹介（９社18人が仲間入り）



| 氏名 | 椚　駿介 | 廣瀬　裕大 | 尾澤　郁 | 青嶋　隼平 | 天野　洸憂也 | 久保島　大成 | 佐藤　琳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会社名 | 甲信商事㈱ | 甲信食糧㈱ | ㈱甲府情報システム | 国土防災技術㈱ | ㈱正直堂 | ㈱正直堂 | ㈱正直堂 |
| 趣味 | 旅行<br>音楽鑑賞 | 水泳<br>映画鑑賞 | テニス<br>トレーニング | ツーリング<br>ギター | 映画鑑賞<br>サッカー | 麻雀 | K－POP<br>韓国ドラマ |
| チャレンジしてみたいこと | DIY、ボルダリング | 惣菜管理士取得 | ネットワーク資格（LPIC・CCNA等）に挑戦 | ソロキャンプ | 世界旅行 | ダイエット | 韓国旅行 |

| 氏名 | 安部　成美 | 渡邉　陵 | 土井　彩夏 | 孫野　海斗 | 倉本　史也 | レークァン　ミンマン | 岡　明果里 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会社名 | ㈱正直堂 | ㈱日医工山梨 | ㈱羽中田自動車工業 | ㈱羽中田自動車工業 | ㈱羽中田自動車工業 | ㈱羽中田自動車工業 | むろい㈱ |
| 趣味 | 絵を描くこと<br>音楽鑑賞 | 体を動かすこと<br>スポーツ | 旅行<br>クラリネット | 自分の車をいじる<br>車の運転 | ドライブ<br>何事もまじめに取り組む | スポーツ<br>車の運転 | 料理を作る |
| チャレンジしてみたいこと | 北陸地方へ旅行 | ソロキャンプ | 車の知識をもっと増やす | これから一人で車を塗装すること | 自動車検査員を取得する | 板金と塗装の作業に早めに慣れること | お化け屋敷に入ってみたい |

| 氏名 | 大森　彩菜 | 中丸　怜 | 小林　実生 | 小林　海斗 |
|---|---|---|---|---|
| 会社名 | むろい㈱ | ㈱渡辺商店 | ㈱渡辺商店 | ㈱渡辺商店 |
| 趣味 | 旅行 | サッカー観戦<br>バレーボール | 韓国ドラマ<br>韓国語 | ソフトテニス<br>ドラマ鑑賞 |
| チャレンジしてみたいこと | 世界一周 | ギターを弾くこと | バンジージャンプ | 英語を話せるようになる |

# 各会社及び社会で役立つことを目指せ

## 栗山理事長 新入社員研修会で要請

新入社員研修が、４月８日（木）、９日（金）の両日、流通会館会議室で開かれ、団地内企業８社から17人が参加した。

開講式で栗山理事長は「新型コロナウイルス感染症の患者が山梨県で累計1,000人を超え、これから業務等で外に出る機会が多くなると思うが、新型コロナウイルスに罹らないように日常の健康に留意し、各会社で活躍してもらいたいと思っている。また、今回の新入社員研修は、これから社会で役立つ基礎の部分を勉強する機会である。その後、各会社で経験を積んで、その上に知識を積み重ね、各社の役に立つ人材になってもらいたい」と呼びかけた。

講師は、㈱学宣の鬼塚啓介先生。受講生たちは身だしなみやお辞儀の仕方等のビジネスマナーをはじめ、ビジネス話法や電話応対、仕事の進め方等を学んだ。実践的な研修に受講者からは「ただ聞くだけでなく、実際に名刺交換や電話応対など体験でき勉強になった」「社会人として活躍するために実際どのような行動、意識を持てばいいのかという具体的なことがよくわかりました」等の声を聴くことができ、有意義な研修となった。

# 組合員紹介　山梨貨物自動車㈱

会 社 名　山梨貨物自動車株式会社
代 表 者　石澤　啓一郎
所 在 地　山梨県中央市山之神流通団地3211-11
Ｔ Ｅ Ｌ　055-273-6167
Ｆ Ａ Ｘ　055-273-0836
営 業 所　南部営業所、静岡営業所、松本営業所、長野営業所

当社は「小さな気配り　大きな安心」をモットーに山梨・長野・静岡に拠点を構え、３県を行きかう幹線網を武器に、甲信静間の一般雑貨物流のトップ企業であることに誇りを持って、日々業務を行っています。

甲信静の地域内に限らず、首都圏への輸送も得意としており、もちろん全国への発送も行っています。

また、輸送のみならず、調達・保管・受注・ピッキング・流通加工・出荷・配送及び引越しや移転などトータル物流を請け負う総合物流企業です。

大正時代、富士川舟運の青柳河岸付近で大八車と荷馬車を使い、貨物輸送業を始めたのが当社の始まりです。以降、「進取の気性」と「時代変容の姿勢」を根底に地域とともに歩んでまいりました。

昭和54年には、本社を流通団地のトラックターミナルに移し、きめ細やかな物流サービスを展開する拠点となるべく、最新の倉庫管理システムを導入しました。時代のニーズを敏感にキャッチしながら、さらに倉庫を増床し、物流全体における最適解の提案を行っています。

物流はサービス業であり、商品の形はありません。商品は我々の態度・行動であります。輸送のプロとして、その品質と技術の高さに誇りを持っています。時代の要望と変化を的確に掴みながら、地元密着企業として、皆様に喜んでいただけるサービスを提供し続けます。

# 準組合員紹介　ニチイ電気㈱

事業所名　ニチイ電気株式会社　山梨営業所
代 表 者　淡路　啓二
住　　所　〒409-3845　山梨県中央市山之神流通団地2-5-2（日医工山梨　西向かい）
Ｔ Ｅ Ｌ　055-288-8415
Ｆ Ａ Ｘ　055-288-8416
業務内容　電気設備工事・給排水設備工事・家電販売
営業日時　月曜日～金曜日　8:30～17:30

日医工山梨グループでは、新たに電気設備工事・給排水設備工事・家電販売の「ニチイ電気株式会社」を設立し２月１日より営業を開始致しました。

弊社はこれまで地域の医療・福祉・介護の分野を通じ「地域に根差し、地域に貢献する企業」を目指し邁進してまいりました。

おかげさまで多くのご利用者様の生活に関わらせていただき、様々なお話を伺うなか、ご高齢で在宅での暮らしを維持されている方から、家電の取り扱いや修理に関するご相談が大変多く、「家電量販店へ足を運ぶのも困難」「操作方法が分からない」など、身近な不便を日常的に感じられていることが見受けられました。

それらの声に耳を傾ける中、これは皆様から弊社への要望であると受け止め、電気設備や給排水設備の工事をはじめ、家電製品の販売アフターサービスを手掛る「ニチイ電気株式会社」を設立し、皆様に「安心して生活できる環境づくり」のお手伝いに繋げていきたいと考えております。

将来的にはグループで展開する、訪問診療・訪問介護・訪問看護などをご利用の在宅高齢者の皆様へ向け、IoTを活用した家電の展示販売を行うなど、サービスの提供と連携を目指してまいります。

家電販売におきましては、皆様へ家電量販店での販売価格を参考に、よりお求めやすい「安価」での販売に努め、設置・アフターサービスも万全に整えております。

家電の購入、電気設備工事・給排水設備工事のご用命は、是非「ニチイ電気」までお気軽にご相談ください。ご利用を心よりお待ちしております。

### 組合員変更事項

| 組合員名 | 変更前 | 変更後 |
|---|---|---|
| ㈱クリエート | 社長　望月章 | 社長　望月満 |

### 組合員の加入・脱退

| 組合員名 | 加入・脱退の別 | 住　所 |
|---|---|---|
| ハートエンジェル㈲ | 脱退 | 流通団地3-1-2 |
| 山梨貨物自動車㈱ | 加入 | 流通団地3-1-2 |

### 準組合員の加入・脱退

| 準組合員名 | 加入・脱退の別 | 住　所 |
|---|---|---|
| ニチイ電気㈱ | 加入 | 流通団地2-5-2 |
| 都留貨物自動車㈱ | 加入 | 流通団地2-7-1 |

## 「事務局日誌」

### ～1、2、3、4、5、6、7月の主な会議等～

**◆1月**
- 7日　新年互礼会
- 7日　正副理事長会議
- 12日　リサイクル・一斉清掃日
- 14日　ＢＣＰ会議（感染症対策分追加作業）以降３回開催
- 15日　理事会
- 19日　次期役員推薦委員会
- 26日　認定職業訓練校指導監査

**◆2月**
- 2日　正副理事長会議
- 3日　脳ドック、肺CT検査開始（19日迄）
- 5日　東部会
- 9日　西部会
- 10日　団地再整備特別委員会
- 12日　リサイクル・一斉清掃日
- 12日　南部会
- 19日　北部会
- 22日　卸商業団地機能向上支援事業公募ＷＥＢ説明会
- 24日　次期役員推薦委員会
- 25～26日　乳がん検診

**◆3月**
- 2日　正副理事長会議
- 11日　営業力強化セミナー
- 12日　リサイクル・一斉清掃日
- 19日　理事会・団地再整備特別委員会理事報告会
- 22日　青年部LoMAの会定例会
- 24日　定例懇談会

**◆4月**
- 6日　正副理事長会議
- 8～9日　新入社員研修会
- 9日　北ブロック
- 12日　リサイクル・一斉清掃
- 20日　南ブロック
- 22日　研修・厚生委員会
- 23日　青年部LoMAの会定例会

**◆5月**
- 10日　正副理事長会議
- 12日　リサイクル・一斉清掃日
- 12日　組合会計監査
- 14日　理事会
- 28日　組合通常総会

**◆6月**
- 1日　正副理事長会議
- 5～6日　フォークリフト運転技能講習
- 12～13日　フォークリフト運転技能講習
- 14日　リサイクル・一斉清掃日
- 16日　50周年記念事業特別委員会
- 23日　団地再整備特別委員会報告会
- 24日　コロナウイルスワクチン職域接種説明会

**◆7月**
- 5日　南ブロック懇談会
- 6日　正副理事長会議
- 7日　リサイクル・一斉清掃日
- 7日　廃蛍光管収集処分
- 8日　ＳＤＧｓセミナー
- 10日　営業力強化セミナー（初級）
- 12日　集団健康診断（16日迄）
- 12日　コロナウイルスワクチン職域接種開始（８月30日迄）

## かいがね

60代から始めたのだが、結構熱心に頑張っているのがウォーキングである。言っておくが散歩ではない。口の悪い知人は徘徊老人と言うがそれほど呑気でもない。ある団体に所属していて例年であれば会が主催するウォーキングだけで年間50回ぐらいはある。会員は多くの団体がそうであるようにほどんどが高齢者で、平均年齢はおそらく70代半ばにはなるだろう。最高齢は87歳の男性だが、80代でも元気に歩けるのはうらやましくも思える。当然ながら、会員は皆、脚はそれなりに丈夫で15Kmほどは普通に歩く。数年前迄は20Kmは歩かないと満足しない雰囲気があったが、さすがに平均年齢が上がるにつれて距離は短くなってきた。

ところで、新型コロナウイルスである。昨年は３月以降、４ヵ月間は全く活動を停止した。７月頃になって改善の兆しが見えるとの判断で、参加人数の制限や、当然ながらマスクの着用、手指の消毒、体温チェック等々の対策を講じて再開したのだが、４ヵ月間の活動停止で欲求不満がつのったか参加希望者は例年よりもより多くなり、無下に断るわけにもいかずいつの間にか人数制限は消えた。当初は、歩行中は間隔を取りなるべく会話はしないように等の注意もしたが、メンバーにしてみれば楽しく話しながら歩くのも参加の動機であり、こんな注意事項が長く守られるわけもない。その内、歩行中のマスクは外して良いのではないかということにもなり、次第に新型コロナウイルスに対する警戒心も薄れ、何やら緩んだ雰囲気となった。

とは言え、このところの感染拡大である。大阪は医療崩壊の事態となり、東京や北海道の医療体制もひっ迫している。２回目の緊急事態宣言は、その理由の具体的な説明はないまま「政治判断」で解除されるなど、発令・解除の基準が不明確で、何をどこまで我慢したらいいのか分らず、そのしわ寄せを受けて気の毒なのは飲食店である。感染拡大の責任を一手に負わされているようで同情にたえない。われわれの団体も今の感染状況を無視するわけにもいかず、結局は去年に続いて活動を休止せざるを得なくなった。残念なことに再び欲求不満の状況が続くことになるが、それがいつまでなのか見通すこともできず、ゴールが分らないマラソンを走るようなものだ。

こんな中、ある大学教授の発言が面白い。彼はこう言うのだ。「最大の問題は責任ある人たちがこの危機を自然現象として処理したいと考えていることだ」と。さすがに新型コロナのまん延を自然現象と「発言」する政治家はいないと思うのだが、内心では彼等とて責任を回避したい気持ちは山々だろうから、それは的を射た指摘かもしれない。正に目からウロコである。責任ある人たちには、本来の生活に戻るための道筋を早く示してもらいたいものだ。

（M）